

奄美市医療懇話会「勤務医アンケート」集計結果・事務局分析

1. アンケートの目的

奄美市における持続可能な医療のあり方について議論する奄美市医療懇話会における議論を深めるため、奄美市内の勤務医が感じる他地域との比較や医療における強みや課題、生活環境等についてアンケートを行った。

2. アンケート実施期間及び実施方法

- (1) 実施期間 令和8年2月5日（金）～2月23日（月・祝）（19日間）
- (2) 実施方法 病院事務局の協力によりアンケート用紙を配布
- (3) 回答方法 WEB 又は紙回答

3. 回答結果

アンケート回答数 72人（配付数（※）：123 アンケート回収率：58.5%）

※配付数：病院事務局から医師等に配付したと報告を受けた数

4. アンケート集計結果：別紙のとおり

5. アンケートから見てきたこと

「病床運用状況は比較的高いと感じながら、個々人の業務負担感に大きな逼迫感はない」

- ・回答者の 72.6%が病床運用状況が高いと感じているが、個々人の業務負担については62.2%が許容範囲と回答

「他の離島地域と比較すると、奄美市の医療は総じて充実している」

- ・他の離島地域や過疎地域と比較すると、奄美市の医療は総じて充実しているとの評価。特に「救急・時間外への対応力」は69.8%の回答者が充実していると評価。
- ・一方、「専門外来の確保」については、他の離島地域等及び都市部と比較しても劣っているとの評価が半数超。その内容について、さらなる分析が必要。

「奄美市での生活がイメージできる情報発信の必要性が高い、しかし、その発信の役割は多様に」

- ・新たな人材確保にむけては、「自然・レジャー・気候」や「生活情報」、「奄美独自の文化・コミュニティ」など、仕事以外での奄美市での生活をイメージできる情報発信の重要性が示唆。
- ・一方、その発信の担い手としては、「各病院公式サイト」（67.1%）、「病院・診療所のSNS」（60.0%）と高く、行政の情報発信との役割分担も示唆されている。